

第4回 役員協議会議案

日 時：令和7年12月23日（火）

午前9時30分

場 所：道北なよろ農業協同組合 本所 役員会議室

道北なよろ農業協同組合

(報告事項)

1. 令和6年産民間流通小麦精算・7年産2次概算金払いについて
(別紙1 P)

2. うるち・もち米の追加概算払いについて (別紙2 P)

(協議事項)

1. メカニックセンター運営方針について (別紙3 P)

2. 地区別懇談会の回答について (別紙4～6 P)

(報告事項)

1. 令和6年産民間流通小麦精算・7年産2次概算金払いについて
(別紙1 P)

2. うるち・もち米の追加概算払いについて (別紙2 P)

(協議事項)

1. メカニックセンター運営方針について (別紙3 P)

2. 地区別懇談会の回答について (別紙4～6 P)

令和6年産 民間流通小麦精算金

(税込：軽減税率対象)

品種	出荷数量 kg	等級	概算金	2次概算金 R6.12.20	精算金 R7.12.19	最終精算単価
きたほなみ	2,306,160	1等	44.009円/kg (2,640円/俵)	4.5円/kg (270円/俵)	4.092円/kg (246円/俵)	52.601円/kg (3,156円/俵)
春よ恋（初冬まき）	179,150	1等	61.520円/kg (3,691円/俵)	4.5円/kg (270円/俵)	4.092円/kg (246円/俵)	70.112円/kg (4,207円/俵)
春よ恋（春まき）	352,380	1等	61.520円/kg (3,691円/俵)	4.5円/kg (270円/俵)	4.092円/kg (246円/俵)	70.112円/kg (4,207円/俵)
小計	531,530					
合計	2,837,690					

※ 精算日：令和7年12月19日（金）

令和7年産 民間流通小麦2次概算金

(税込：軽減税率対象)

品種	出荷数量 kg	等級	概算金	2次概算金 R7.12.19	概算金合計
きたほなみ	2,092,140	1等	37.382円/kg (2,243円/俵)	6.48円/kg (389円/俵)	43.862円/kg (2,632円/俵)
春よ恋（初冬まき）	117,460	1等	45.554円/kg (2,733円/俵)	6.48円/kg (389円/俵)	52.034円/kg (3,122円/俵)
春よ恋（初冬まき）	16,550	2等	39.074円/kg (2,344円/俵)	6.48円/kg (389円/俵)	45.554円/kg (2,733円/俵)
春よ恋（春まき）	172,580	1等	45.554円/kg (2,733円/俵)	6.48円/kg (389円/俵)	52.034円/kg (3,122円/俵)
春よ恋（春まき）	1,010	2等	39.074円/kg (2,344円/俵)	6.48円/kg (389円/俵)	45.554円/kg (2,733円/俵)
小計	307,600				
合計	2,399,740				

※ 精算日：令和7年12月19日（金）

令和6年産 もち米精算・追加払いについて

もち一般米 追加概算払い

単位:円/俵 (税込)

品種	等級	入庫時概算金	追加概算金 7.4.30	追加概算金 8.1.8	合計
はくちょうもち	1等	13,500	3,500	374	17,374
風の子もち					

もち超過米 追加概算払い

単位:円/俵 (税込)

品種	等級	入庫時概算金	追加概算金 7.4.30	追加概算金 8.1.8	合計
はくちょうもち	1等	13,500	3,500	200	17,200
風の子もち					

もち加工用米 精算払い

単位:円/俵 (税込)

品種	等級	入庫時概算金	追加概算金 7.4.30	追加概算金 8.1.8	合計
はくちょうもち	1等	8,500	1,300	802	10,602
風の子もち					

経理日 令和8年1月8日 (木)

メカニックセンター運営方針について

1) 統合に至った経過

今回の統合に至った経過については、智恵文メカの事業収支の赤字が慢性的に続いており農協の監査体制もＪＡ全国監査機構から監査法人への監査業務の移行に伴い、リスクある項目に対して重点的に監査されることとなり、令和２年度にみのり監査法人の指導のもと減損処理が行われ、赤字部門への対応が急務であったことから、第５次地域農業振興計画・中期経営計画（令和５年度～令和９年度）にて工場の集約化を計画し、方向性を示させていただいた中で令和６年２月にアンケート調査を実施した。

当初は令和７年３月末をもって風連メカと統合する方向で進んでおりましたが、アンケート調査の結果を受け内部で協議し、今後二カ年については継続し収支の改善（黒字）が見込まれない場合には統廃合も含め再度協議することとし、３月に説明会を開催し組合員へ理解を求めた。

その後、意見交換会を４回開催し生産者からの意見・要望等をお聞かせいただきながら収支改善の取組として予約購買による安価供給、メカ利用による資金借入優遇利率の拡充、修理工賃の値上げ、事務所集約（兼務）による事務の効率化・費用の分散など行い、組合員の利用により大幅に取扱は増えたが収支の黒字までには至らず令和８年３月末をもって智恵文メカを本所メカと統合する運びとなりました。

2) 統合後の在り方について（令和８年４月以降）

風連からの出張修理による時間的な問題、ディーラーの整備士不足などから修理等に遅れが生じれば収量にも影響することから、４月以降は智恵文メカの整備工場を道北なよろメカニックセンターの出張所として修理対応することとし、出張所の在り方、人員体制等については下記の通りと致したい。

①出張所については２名体制とし、現状通り智恵文購買課・給油所業務の兼務、購買課職員にはメカの兼務をつけることで協力体制を維持しつつ費用の分散を行う。

②農作業が始まる４月からは修理作業等について日々あることから、智恵文支所購買課事務所に席を置き常駐による対応とする。

③冬期間（１２月～３月）について出張所は閉鎖とし、修理等が発生した場合には智恵文購買課まで連絡をいただき対応することとする。

④閉鎖している冬期間には格納整備として預かっている田植機、コンバインの整備を出張所でも行うことで作業適期に応じた納品が可能となり、格納整備等を行うことで整備技術の向上が図られる。

また、購買課、給油所業務にも従事することとする。

⑤溶接による製作作業は外注扱いとする。（出張での溶接作業は行う）

⑥出張所営業形態

営業期間 ４月～１１月 閉鎖期間 １２月～３月

開催日時場所 風連地区 12月15日(月) 午前9時30分 交流センター
名寄地区 12月16日(火) 午前9時30分 営農センター
智恵文地区 12月16日(火) 午後1時30分 多目的研修センター

出席組合員 32名 (風連8名・名寄11名・智恵文13名)

【総務部門】

Q1 次年度4月1日以降、完全週休二日制(4週8休)にするとの事だが、営業日についての考え方を説明願いたい。

A1 事務所については土曜日閉所の予定ですが、それ以外の現業部門については現状の営業日のまま、交代制で完全週休二日制(4週8休)にする予定です。

Q2 完全週休二日制(4週8休)については、労働環境の面からも良い事だと思う。併せて職員の待遇改善にも取り組んでいただきたい。

A2 待遇改善については、昨今の物価高や人手不足による初任給の上昇もあり、バランスを見ながら待遇改善を行っております。社会情勢を鑑みながら都度改善を図って参ります。

Q3 職員の採用について優秀な人材が集まるようにお願いすると共に、農協業務についてデジタル活用も含め職員の業務負担軽減に対する合理化等の取組を願いたい。

A3 週休二日制を取り入れることにより、今まで行っていた業務を労働時間の影響により対応出来ないとはなりませんので、合理化対応と併せ優秀な人材が集まるよう取り組んで参ります。

【営農販売部門】

Q1 風連RCの増強工事について、現況施設の清掃業務について高所作業もあるので、しっかりとした動線の確保と安全対策をお願いしたい。

また、半乾粳の受入れについて曜日毎に地区割をしていますが、受入量の偏りがあるように見受けられるので平準化して欲しい。

A1 各関連施設については、作業事故防止対策として作業安全確認をするコンサルタント会社に依頼し各種修繕・整備を取り進めております。

また、最近では始業前・始業後の清掃専門業者もあるとの事で検討中です。今回の増強工事においても限られたスペースですが、安全が確認できる動線の確保に努めていきます。

今後とも、作業負担の軽減に向けた取組みと安全大会の実施を取り行なって参ります。また半乾粳の受入については、現場の状況を見極めながら平準化となるよう取り進めて参ります。

Q2 上川 R T の半乾粳受入時間について、以前は朝 8 時からの受入れだったが、現在では朝 9 時からの受入れになっている。諸般の事情もあると思うが、稲刈り作業をスムーズに行いたいので、朝 8 時からの受入れに戻してもらえないか。

また、半乾粳保管場所の床がデコボコになってきているので、荷崩れしないように修繕願いたい。

A2 スムーズな作業が行われるよう、上川 R T に申し送りします。

Q3 近年、道東地区において陸稲の作付けが増えているようだが、当地区管内で作付けする生産者がいた場合、J A で取扱いするのか。

A3 陸稲の取扱いについては、法令上（水田政策・農産物検査法・農薬取締法・食品表示制度）の取扱いについて農林水産省に見解を求めており、系統の道米対・道畑対においてもこれといった取扱方針が定まっておりません。

しかしながら J A グループ北海道が取組んできた需給の安定・稲作経営の安定に向けた取組やブランド米の価値向上の取組への影響を回避する為、陸稲的栽培米については「陸稲」として、水稻とは別品目の取扱いとすることを検討しております。

Q4 グリーンアスパラの大苗助成は、いつ迄あるのか。

A4 令和 9 年春の引渡しで最後となります。多くの方の御利用、作付けをお願いいたします。

Q5 各生産部会の現地講習会参加者について年々減少しているが、現地にて生育を確認しながらの講習はとても大事だと考えている。大勢参加して欲しいのだが、何か良い方法は無いか教えてほしい。

A5 現地にて生育を確認しながらの講習は大事だと考えています。毎回、新しい技術・諸資材・事例等を紹介しながら、参加者の増加につながるよう関係機関・講師・また生産部会の方々と相談しながら進めて参ります。

Q6 もち米の概算金の発表時期について、出荷契約後や田植え後等に、おおよその情報として案内してもらえないものか。投資計画に影響があるので極力早めをお願いしたい。

A6 もち米団地協議会においては出荷契約の数量を基本にして早期販売契約を進めており、相場動向を早めに把握するよう努めておりますが、集荷対策を軸とした取進めがございますのでご理解願います。

Q7 大豆の施設利用における概算払いについて、経営所得安定対策数量払いに基づいた反当 3 俵に対しての概算払いだが、施設利用の持ち分確定が作付面積の増加により年明けとなるのは理解するが、反 3 俵ではなく個別の予想収量を想定した対象数量概算払いと、単価についても作柄に合った設定単価にはならないか。

A7 次年度の概算払いに向けて検討致します。

Q8 馬鈴薯のコンテナが不足し、他品目のコンテナを使っている。導入を検討して欲しい。

A8 青果物全体的の作付面積が減少傾向にあります。馬鈴薯、南瓜、玉葱についても同様ですが、老朽化が進んでいる事もあり、事故防止の観点からも使用可否について、しっかり分別し、計画的に野菜コンテナとしての導入も検討して参ります。

Q9 有害鳥獣対策について、名寄市鳥獣協の協力と罠・電牧使用や花火等も使って自己防衛していますが、本年においては特に熊の出没場所も多岐に渡っています。名寄市の熊出没情報について、地区は出ていても場所が特定しがたいので詳しい場所の取得方法はないか。特にスイートコーンの収穫時期には人命の危険性を危惧しています。何か撃退器具等あれば情報としていただきたい。

A9 有害鳥獣対策について、各々ご苦労されている事と存じます。人命に関わる事であり、行政にも人身被害防止強化と捕獲時期の継続的な対応や、近隣市町村を含めた広域的な捕獲と更には若年ハンターの育成・確保を行うよう道・国へ要請もしております。併せて撃退器具等の情報収集・案内に努めて参ります。

Q10 加工南瓜の疫病が多く発生しています。疫病の発生原因・出荷体制等はどうなっているのか。

A10 疫病の発生原因については、各関係機関等に調査をしていただいているところです。近隣 J A でも多数発生している状況で、対応について意見交換等も実施しておりますが、一番の対策として圃場の排水性と防除の徹底が必要だと考えています。また、出荷時の対応についても加工業者と協議中であり、生産者の皆様にはご協力いただく場面も出てくるかと思いますが宜しくお願い致します。

【購買部門】

Q1 生産資材をネット注文できるようになれば利便性が良くなるのではないかな。

A1 J A コネクトを利用したシステムの運用を検討して参ります。

Q2 来年 1 2 月からの冬期間について智恵文メカニックが閉鎖となるが、部品の注文、修理等のお願いをしたい場合はどうしたらいいのかな。

A2 本所農機車輛課又は智恵文支所購買課まで連絡いただければ対応致します。

Q3 物価の高騰から生産費が上昇しており、農家を取り巻く環境は依然として厳しい状況から事業分量配当など対策を講じていただきたい。

A3 決算の状況を鑑みながら検討して参ります。